

第2章 合併の経緯

合併の歴史的経緯

(1) 「明治の大合併」～「昭和の大合併」

「明治の大合併」

中球磨5か町村は、明治以前は相良氏による約700年の統治下にあり、球磨郡の中心に位置し、地理的な阻害要件もないことなどから古くから社会、経済的な交流が盛んに行われてきた。

特に、免田村に鉄道の駅が開設され、国道が整備されると、中球磨地域の経済の中心として産業基盤の整備が行われてきた経緯がある。

当地方の合併問題は、明治22年の市町村制施行によって免田村、須恵村、岡原村が発足。同27年に深田村が木上村（現錦町木上地区）との組合村を解き深田村が発足。同28年に上村・皆越村が合併し上村として発足した。

この時点において、現在の中球磨5か町村の区域がほぼ確立している。

「昭和の大合併」

昭和22年8月に地方自治法が施行、同年10月に町村合併促進法が施行され、昭和28年11月中球磨5か町村の合併が県の試案として発表された。関係町村ではこれを受けて各町村で研究会、懇談会を重ね、31年1月には町村長が免田町において会合し、合併促進協議会設置について協議し、同月27日に設置。本格的な合併に向けての取り組みを行うこととなった。

同年3月には、県主催により合併についての経過報告及び将来の対策等の打合せ会が開催されるなど、各地区において座談会等が重ねられたが、結論を出すまでに至らなかった。

4月に入り、関係5町村長名をもって協議会設置届出を県知事に提出し、数回にわたり協議会の総務委員会が開催されたが、各町村の意見の一致をみなかった。

町村の中には、早急に合併すべきとの意見もあったが、財産区運営について調整が難航、協議会は行き詰まり、昭和31年10月の会議を最後として協議会は自然解散の形となった。同32年1月には、県知事による中球磨5町村合併についての勧告がなされ、議会による町村合併議案を可決した町村もあったが、合併反対、態度保留など足並みが揃わず、結局合併は実現しなかった経緯がある。



昭和初期頃の免田町（資料：免田町史）

(2) 広域行政への取り組み

人吉球磨地域の1市13町村では、多様化する住民の行政需要に単独自治体では対応が困難なことから、昭和16年に設立された球磨郡公立多良木病院組合をはじめ、消防・し尿・ごみ処理、土地改良などの一部事務組合を設立し取り組んできた。

なかでも、昭和39年から52年にかけて中球磨地域を中心に実施された「中球磨5ヶ町村農業構造改善事業」は、関係町村で一部事務組合を設立し、西日本地域では先駆的な農業生産基盤の整備事業として、土地改良事業（圃場を30aに区画整理）、農業施設の近代化などを一体となって取り組んだ経緯がある。

一部事務組合の設立状況（平成12年4月1日現在）

組合の名称 (設立年月日)	所在地	構成町村（中球磨の場合）						処 理 業 務
		上 村	免 田 町	岡 原 村	須 恵 村	深 田 村	町 構 村 成 数 市	
球磨郡公立 多良木病院組合 (昭和16年4月1日)	多良木町	○	○	○	○	○	8 町 村	・病院の設置、管理運営 ・老人保健施設の設置、管理運営 ・在宅介護支援センターの設置、 管理運営 ・総合検診センター及び検診車 の設置、管理運営
川辺川総合土地 改良事業組合 (昭和47年4月1日)	山江村				○	○	7 市 町 村	川辺川総合土地改良事業
上球磨消防組合 (昭和49年4月1日)	多良木町	○	○	○	○	○	8 町 村	消防・救急
人吉球磨広域 行政組合 (平成元年10月1日)	人吉市	○	○	○	○	○	1 市 13 町 村	特別養護老人ホーム、伝染病隔 離病舎検診車、し尿処理、ごみ 処理、火葬場、と畜場、田園都 市中核施設（カルチャーパレス）、 広域にわたる総合的な計画の策 定、広域行政事務の実施及び連 絡調整

合併等の歴史年表（主なもの）

明治4年	永池村と免田村を合わせて免田村となる。
明治17年～21年	免田村と須恵村が連合村となる。
明治22年	町村制施行。上村と皆越村は組合村として発足。
(明治の大合併)	町村制施行により、 <u>免田村</u> として発足。 町村制施行により、 <u>須恵村</u> として発足。 宮原村・岡許村が合併し <u>岡原村</u> として発足。 町村制施行により、 <u>深田村・木上組合村</u> 発足。
明治27年	深田・木上組合村を解き、 <u>深田村</u> として発足
明治28年	上村・皆越村が合併し、 <u>上村</u> として発足。
明治31年～32年	上村と免田村の合併問題が起こる。両村合意のうえ新村名「上田村」と称 するところまで議決されたが合併には至らなかった。
昭和12年	免田村、 <u>町村制施行免田町</u> となる。
昭和29年～32年	5か町村で合併推進協議会の規約が議決され、委員60名により合併推進に 向け努力されたが合併には至らなかった。
(昭和の大合併)	中球磨5ヶ町村農業構造改善事業組合を設立。 ※耕地圃場の区画整理に一体となって取り組む。
昭和39年～52年	一部事務組合の設置（し尿、ゴミ処理、火葬場、消防、医療、老人福祉）
昭和44年	人吉球磨広域行政組合を設立（消防、病院事業を除く広域行政）
平成元年	「熊本県市町村合併調査研究委員会」を熊本県が設置。（県立大学内）
平成6～7年	（市町村合併の必要性、合併した場合の地域に与える影響等を調査研究） 「市町村の自主的合併に関する調査研究報告書」の報告
平成8年3月	※当地域が市町村合併のモデル地域（行財政効率型）として、報告される。
平成8年10月18日	「 <u>中球磨地域広域行政懇話会</u> 」を設置。5か町村長で構成。 ※中球磨地域における広域行政のあり方について、調査・検討を行う。

平成 8 年～9 年	中球磨地域広域行政懇話会における、調査・検討。 ※下部組織として、5 か町村総務課長で構成する幹事会を設置。
平成 10 年 4 月 1 日	<u>「中球磨 5 か町村合併問題協議会（任意協議会）」を設置。</u> ※5 か町村の長及び議会議長で構成。
平成 11 年 4 月 1 日	<u>「中球磨 5 か町村合併協議会（法定協議会）」を設置。</u>
平成 13 年 5 月 25 日	第 24 回中球磨 5 か町村合併協議会で「中球磨 5 か町村の合併推進」を確認。
平成 13 年 11 月 22 日	中球磨 5 か町村長による合併協定書調印。
平成 14 年 1 月 15 日	<u>中球磨 5 か町村議会で「廃置分合」の議決。</u>
平成 14 年 1 月 18 日	中球磨 5 か町村長による合併申請書を県知事へ提出。
平成 14 年 3 月 22 日	熊本県議会で中球磨 5 か町村の廃置分合を議決
平成 14 年 3 月 22 日	熊本県知事による合併の処分決定
平成 14 年 4 月 3 日	熊本県知事から総務大臣への廃置分合の届出
平成 14 年 5 月 23 日	総務大臣による告示
平成 15 年 4 月 1 日	<u>中球磨 5 か町村が新設合併。「あさぎり町」として発足。</u>

(3) 市町村の自主的合併に関する調査研究報告書

(平成 8 年 3 月：熊本県市町村合併調査研究委員会「熊本県立大学総合管理学部内」)

平成 6 年～7 年度にかけて熊本県によって熊本県立大学総合管理学部内に「熊本県市町村合併調査研究委員会」（委員長：手島孝県立大学長）が設置され、今後の市町村合併の必要性、合併した場合の地域に与える影響などについて調査研究が行われた。

平成 8 年 3 月には、その成果として「市町村の自主的合併に関する調査報告書」が報告されたが、その調査課程において実施された「合併の可能性が高い地域に関しての住民意向調査」においては、中球磨 5 か町村の回答者のうち、63%～85%が合併の必要性を認める回答があり、同報告書の中において、当地域は市町村合併のモデル地域（行財政効率型）として報告された。

この調査研究では、熊本県内でこれからあり得る市町村合併を 3 つに類型化し、

①行財政効率化型、②市制移行型、③地方中核都市形成型

の各類型ごとにモデル地区を設定して、合併が地域に与える影響や課題等が分析されている。

(合併の 3 類型)

類 型 名	合併の狙い	モ デ ル 地 域
行 財 政 効 率 化 型	行財政運営の効率化を目指す	【中球磨 5 か町村】 ・狭小な地域で地域内の一体性が強い。 ・基盤の弱い町村間で、行財政の効率化を進め高齢福祉行政などに対応することが必要。
市 制 移 行 型	市制への移行で都市機能の充実を図る	【大津町・菊陽町】 ・水系の共通性や住民意識などで一体性がある。 ・人口が急増しており都市化への対応が必要。
地方中核都市形成型	地方中核都市の形成により地域全体の振興を目指す	【本渡市周辺 5 市町】 ・商圈の形成など地域の一体性が認められる。 ・天草地域（県西部）の発展のために核が必要。

(4) 市町村長トップセミナーの開催

平成 7 年及び 8 年には、県及び県内市町村の共催により「市町村長トップセミナー（対象：県内市町村長及び議会議長）」が開催され、地方分権の到来や受け皿としての市町村の行政体制についての講演（講師：大学教授、地方分権推進委員、自治省幹部等）や市町村長を交えてのパネルディスカッションなどが開催された。

これらを通じて、中球磨 5 か町村においても町村長の段階で、今後進展するであろう地方分権への対応と、住民ニーズの多様化と少子高齢化により増加・変化する行政サービスのあり方についての対応策を検討する必要性を感じ、平成 8 年 10 月に「中球磨地域広域行政懇話会」を設置することとなった。

